

評価項目	評価内容	前期: 4月～9月		後期: 10月～3月			
		評価	取り組み状況	評価	取り組み状況		
保育方針	○豊かな自然に恵まれた環境を活かし、四季を通して遊ぶ中で知性と感性を育む保育を行います	A	昨年度末の課題検討会を経て、検討結果を反映した。	A	身の回りにある「いのちあるものの存在」に気付き、それを等しく大切にすること子ども		
	○仏様に手を合わせる中で、自らを省みること、自分と自分を支えてくれる存在を大切にすることの尊さを伝え、思いやりと感謝の心を育む保育を行います					○「ありがとう」と「ごめんなさい」の気持ちを素直に伝え、友だちと共に成長し合う子ども	
	○子ども達の「やってみよう！」の気持ち、好奇心と自主性を尊重し、適切な援助を行うことで「できた！」につなげる保育を行います					○何事にも意欲的に取り組み、様々な挑戦を繰り返す中で自信を育み、自立心を備える子ども	
	○子ども同士の関わり合いが深まるよう、言葉による援助や環境構成に配慮した保育を行います					○お話をよく聞き、思いを伝え合う中でお互いを認め合い、一人一人が持つ自由な創造性を集団の中で更に深める子ども	
	保育課程・保育目標・保育指導計画等は、定期的に評価見直しを行っている。					職員会の都度、園の方針を伝えるよう努めた。	クラス担任が作成したものを主任保育士が内容を確認。適宜助言を行い、最終的に園長が承認。
	保育目標は全職員で検討することで共通理解を図っている。					前年度の子どもの様子を踏まえ、見直しを実施。	前期に引き続き同等の内容を継続。
	指導計画は、子どもの実態を踏まえ発達過程に応じ作成している。					保育指針に基づき行った。また、昨年度から継続している作業療法士の定期的な訪問を取り入れ、いわゆる気になる子に対して適切な関わり方ができるよう、助言を受けた。	同上
	子どもへの援助・支援は、保育指針に基づき適切に行っている。					昨年度に引き続きコロナ対応のため、室内環境の改善を行った。また、0・1歳児の保育環境改善のため、部屋のレイアウトの見直しや家具類の見直しをおこなった。	同上
	環境構成は、保育や子どもの発達過程を常に意識し工夫している。					昨年度の反省を踏まえ、行事の見直しを実施。また、慣例的な行事であっても改めて、行事の目的を再確認した。	同上
行事はねらいを明確にし、計画や実施に十分生かしている。	指導計画の中で障害児に対する保育は個別の項目として検討・配慮している。また、作業療法士等に定期的に発達相談を行い、適切な関わり方となるよう配慮した。	同上					
障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育内容や対応に配慮している。	松ヶ丘小学校様と連携しアプローチャリキュラムの内容を見直した。	前期に見直した内容に基づき保育を行った。					
小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて保育の内容や方法など、保護者に伝えている。							
健康・食育及び安全について	子どもの健康管理は一人一人の健康状態に応じ対応している。	A	昨年度作成したガイドラインに基づき感染症対策と日々の健康管理を実施した。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。		
	緊急時(事故、感染症の発生時など)における子どもの安全確保のための体制を整備している。	A	事故防止マニュアルを元に園内研修を実施した。	A	同上		
	子どもの安全確保のために防災に対する計画を立て定期的に訓練を実施している。	A	年度当初、消防署に届け出た計画に基づき避難訓練を実施。	A	同上		
	健康や安全な生活に必要な習慣が身に付くための援助と共に家庭への情報提供を行っている。	A	園だよりや個別の相談を通じて情報提供を行った。	A	同上		
	楽しく食事ができるような配慮や環境の工夫をしている。	A	クラスごと、3歳以上児はグループ分けも定期的に行い、楽しい食事環境の構築に配慮した。また飛沫対策のため、全クラス2人掛けのテーブルに変更した。	A	同上		
	食物アレルギーの対応や誤食防止に配慮している。	A	入所時にアレルギーに関する聞き取りを行い、調理員との連携も行き適切に対応した。	A	同上		
子育て支援について	保護者からの子育てに対する相談や意見などには適切な対応・援助を行っている。	A	作業療法士からの助言も取り入れ、就学相談が必要な子については保護者に適宜打診した。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。		
	地域の関わりを大切にし、おひさま広場、育児相談、一時預かりなど積極的に取り組んでいる。	C	園開放がコロナの影響により、予定していた13回のうち、3回しか実施できなかった。	C	前期同様コロナ禍のため1回しか活動ができなかった。		
職員の資質向上について	計画的に園内研修を行っている。	A	コロナの影響は受けつつも、オンラインの研修を活用し積極的に研修を行った。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。		
	諸研修の成果を保育に生かし、子どもの育ちに反映している。	A	YYプロジェクトの総合指導や作業療法士の訪問による助言を受け、保育内容の見直しが出来た。	A	同上		
	自己評価・第三者評価を定期的に行ない保育の改善に努めている。	D	第三者評価は未実施。コロナ対応や認定こども園への移行手続きで通常よりも高い負荷がかかり、職員の自己評価について適切に対応出来なかった。	D	前期と同様の状況が継続してしまった。		
運営・管理について	保育所の課題について共通理解を深め、協力して改善に努めている。	A	昨年度に引き続き、コロナに関する協議する時間が多かったが、保育環境の見直しなども行えた。	A	前期に引き続き同等の内容を継続。		
	職員会を適切かつ効率的に進めている。	A	月1回程度職員会を実施。職員の負担軽減を目的に、夕方ではなく昼間(13:30～14:30)に実施。事務連絡等については	A	同上		
	守秘義務、法令の遵守をし、個人情報の取り扱い及び苦情解決など、適正かつ適切に行っている。	A	第三者委員の設置とともに苦情対応窓口を設置し適切に行った。	A	同上		
	施設内外・設備・遊具などの安全点検を計画的に行っている。	A	環境点検表に基づき、毎月安全点検を行った。コロナ対策のため、卓上パーテーションを必要数購入した。	A	同上		
評価	目安	前期総合評価	今後の課題と改善策		総合評価	評価理由	
A: 十分に達成されている	90～100%	B	・園独自に策定した感染症対策ガイドラインに基づき、新型コロナウイルス対応は適切にできた。		B	・新型コロナウイルスに関する対応と認定こども園への移行手続きに多くの時間が割かれてしまった。その中で見直せたものも多くあったが、自己評価など職員への指示・伝達がうまく出来なかったこともあり、今後改善していきたい。 ・特に自己評価については保育に関することだけでなく、園としての目標と紐付けた運用をすべきであり、自身の研鑽を含め、新たなあり方を模索する。 ・生活発表会についてはまん延防止等重点措置適用の影響により、当初の予定通りには実施出来なかったものの、ホクト文化ホールでのビデオ収録は実施でき、保護者の方に子ども達の様子をお伝えすることができた事は評価したい。	
B: ほぼ達成されている	70～90%未満		・運動会はコロナ禍での実施が2回目となり、落ち着いて対応できたものの、3歳未満児の発表が引き続き実施することができなかった。来年度は会場を園外の広い場所に設けることも含め、可能な限り全園児が参加する方向で検討していきたい。				
C: 取り組んでいるが不十分	50～70%未満						
D: 取り組みが不十分	50%未満						

※クラスによっては評価項目が該当しないものもあります。その場合は評価欄は「—」と記入してください。